11a-6 高齢者の服装色に関するイメージ評価
○庄山茂子** 椎原 裕**
（*県立長崎シーボルト大　*九州芸術工科大）

【目的】我が国では、人口の高齢化が進み21世紀の高齢社会にむけて、高齢者が心身ともに健全で自立した生活を送るための生活支援が求められている。本研究は、高齢者の服装における色彩に着目するものである。服装における色の選択は、着者の心理的、心理的、社会的意味を含んでいる。本研究ではＣＧを使い高齢者の服装色を75色作成した。これを高齢者自身と若き世代の女子学生がどのように評価するか、比較検討することで高齢者が真に豊かな友生活を送るための服装色を探ることを目的とした。

【方法】（1）試料：服装色の異なる75種の高齢者の服装写真　（2）調査対象：60歳以上の高齢者女子103名、18～19歳の短大生女子100名　（3）調査時期：平成10年6月～7月　（4）調査方法：質問紙法による面接調査　（6）調査内容：1) 40色相列別検査　2) 75色の総合評価　3) 高齢者に理想的服装色、高齢者の実際の服装色、着たくない（着てほしくない）色の選択、それぞれ1位の色について20対の形容詞を用いSD法による5段階尺度でイメージ評価（7）分析方法：単純集計、因子分析、一元配置の分散分析。

【結果】①高齢者の色彩弁別能力は女子学生より劣った。②75色の総合評価では、高齢者と女子学生の評価平均に有意差が認められる色が多く、高齢者の評価は女子学生より高かった。③高齢者に理想的服装色では、色の選択はグループ間で異なったがイメージに「はなやかさ」などの共通性がみられた。④高齢者の現実の服装色では、色の選択とイメージにグループ間の差異がみられた。⑤着たくない（着てほしくない）色では、グループ間で共通性がみられ、「平凡」と「派手」の両極端なイメージがあげられた。

11a-7 ストライプ柄のイメージ（第4報）
○伊藤 誠子** 日下部信幸**
（*東海学園女短大　**愛知教育大）

目的 前報では白地に黒のストライプ柄をプリントとして製作し、ストライプ柄の幅や傾斜角度、形を変化させたときのイメージの差について検討した。今回はストライプ柄の明度を3段階に変化させてウェブライプを製作し、明度によりイメージに差異がみられるか検討した。

方法 ①ストライプは2色配色として、白地に黒、濃灰、淡灰のストライプ柄をプリントした。ストライプ幅は5mm、20mmの2種類、ストライプの傾斜角度は0度（たて）、30度、45度、60度の4種類である。なお傾斜角度30度、45度、60度のストライプについては、右上がりの斜めストライプ柄と谷形のストライプ柄の2種類をプリントした。②①の布を用いて42種類のウェブライプを製作し、試料とした。③各試料のイメージは、濃灰で同一柄の試料を比較試料として、それとの比較により測定する方法と、次に示す方法により測定した。すなわち、たてストライプはSD法、斜めストライプは、同色で同幅のたてストライプの試料を比較試料とする方法、谷形のストライプは、同色・同幅で同一の傾斜角度をもつ斜めストライプの試料を比較試料とする方法により、イメージを測定した。評価は18の対照による5段階評価とした。

結果 ①同一柄の試料を比較試料とした場合では、ストライプ幅20mmの方が明度の違いによるイメージの差が大きくなる傾向にあった。また、明度によるイメージの差の大きさは、傾斜角度や形を変化させてもほぼ同様であった。②20mmで濃灰のストライプは、斜めや谷形ストライプにすることによって、比較試料より「大胆な」イメージが強くなった。